

【令和7年度第2学期始業式 式辞】

2025.10.15 西山

さて、本日より、いよいよ折り返し点のスタートを切りました。今、みなさんは、どんな決意を持っていますか。先週、ノーベル生理学・医学賞を受賞した坂口志文（しもん）さんは、長年、研究したことが認められない期間が続きましたが、自分を信じ、長い間努力を続けたそうです。大切にしている言葉は「一つ一つ」とありました。みなさんは、どんな言葉を大切にしていますか。

さて、本校では今、防災についてより具体的な行動につながる取組を始めています。10月1日には「第3回小松島市中学校防災会議」が行われ、関係機関の方々や市内の中高の先生方と共に、2年生の有志10名の方と南中からも合わせて20名以上の中学生が参加してくれました。一番印象に残ったのは、大人達の話を聞く中学生の真剣な表情とそのまなざし、一生懸命に聞きメモをとる姿でした。その姿に大人の私たちは、自分たちの責任の重さを痛感すると共に、対等の大人に近い存在としての中学生の頼もしさを感じました。意見の中に、「先生方は防災に対して何も不安に思っていないものだと思っていたけれど、先生方も私たちと同じように不安に思っているんだなと分かりました。これからは、自分たちも自分自身で考えて行動できるようにならなければいけないと思いました。」とありました。また、「はじめは軽い気持ちで申し込みをしたけど、大人の人が本気で話しているのを見て大変なところに来てしまったと思った。でも、とても勉強になりました。是非、次回も参加したいです。」と話してくれました。みなさんに、このように地域の大人の真剣な話し合いの場に参加する機会をつくること、そして対等な立場としてその意見を尊重することの大切さを実感しました。明日は宮城県より東日本大震災で当時、教員の立場で避難所運営に携わられた講師 宮本 約（やく）さんをお招きし、南中の先生方と合同で研修を行います。海の恩恵を受けている私たちの“作法”として、みなさんとこれからも防災について共に学んでいきたいと思います。

ところで、先日は、「校則の見直し」について発表をさせていただきました。その根底には、「主体的な生き方をしてほしい」という強い願いがあります。では、「主体的に生きる」とはどういうことなのでしょうか。それは、自らの判断と意思によって選択をするということであり、その場合、選択をしなかつたどちらかの責めを引き受けなければならない、ということです。これから予測困難な時代を生き抜くためには、自分自身に対する「覚悟」が必要になってくるでしょう。

ここからの半年、3年生は義務教育最終の仕上げに、2年生は生徒会をはじめとする最高学年としての準備に、1年生は新入生を迎える準備として、1日1日を共に丁寧に過ごしていきましょう。